



### 今後の予定

今後、10月から11月にかけて対策の効果検証(ビデオ調査、アンケート調査)を行い、その結果を分析し、最終的な対策について検討を進めます。

#### 【平成29年度】

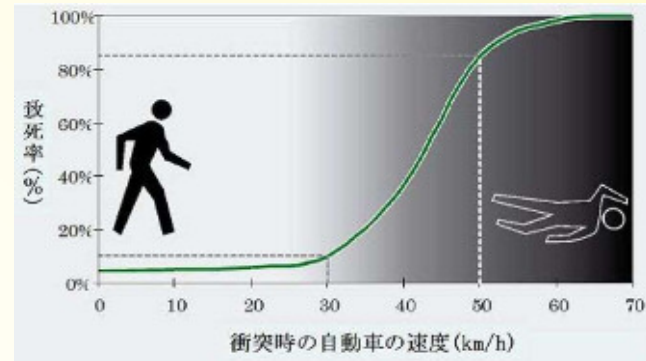
- ・第2回検討会(平成29年9月27日)

- ・社会実験の実施(平成29年10月5日～11月1日(予定))
  - ・社会実験の結果検証(平成29年11月～)
  - ・第3回検討会(平成30年1月(予定))
- 社会実験結果の振り返り

### 【コラム】なぜ車のスピード抑制が重要なのか？

誰も交通事故を起こしたくありません。道路局や土木事務所でも、道路の安全性を高めるために、様々な対策を実施しています。しかし、横浜市内では、年間約1万件の事故が発生し、昨年は49人の方が亡くなられています。

死亡事故を防ぐためには、何が重要なのでしょうか。その答えは、自動車の速度です。時速30kmを超えると死亡事故に至る確率が急上昇します。日本では、住宅街を時速40～50kmで走る車も多く、生活道路では車のスピードを抑制することが大変重要です。



出典：速度マネジメント報告書（世界保健機関）

問合せ先・発行元

横浜市道路局施設課

電話(045)671-2785

担当：青木、銀木



横浜市道路局施設課  
港北土木事務所



## 大倉山三丁目

## 交通対策ニュース

### 車のスピード抑制のための社会実験を行います！

みなさん、こんにちは！横浜市道路局です。

横浜市では、通学路など生活道路の安全対策を進めています。このたび、大倉山三丁目地区を対象として、抜け道となっている道路の車のスピードを抑制し、安全性を高めるための取り組みを行います。

平成29年10月からの約1ヶ月間、地区内の交通安全を確保する対策の1つとして、ハンプ等の設置を試験的に実施します。

- ・第2回検討会を開催し、大倉山三丁目地区における交通安全の対策案と社会実験について意見交換するとともに、ハンプ通行の体験会を行いました。
- ・ハンプ体験会では、イメージよりも段差が高くなかった、通りやすかった等のお声がありました。



#### 目次

ビッグデータの分析結果.....2  
 対策案(社会実験)について.....2  
 検討会で出された意見.....3  
 今後の予定.....4

#### <今までの経緯>

横浜市では生活道路を対象として、ビッグデータに基づいて、大倉山三丁目地区を抽出し、交通安全対策(スピード抑制対策)の検討を進めています。

#### <ハイライト>

- ・ データ分析より、ブレーキ、速度超過の区間を特定
- ・ スピード抑制対策の試行的な取り組み(社会実験)を実施



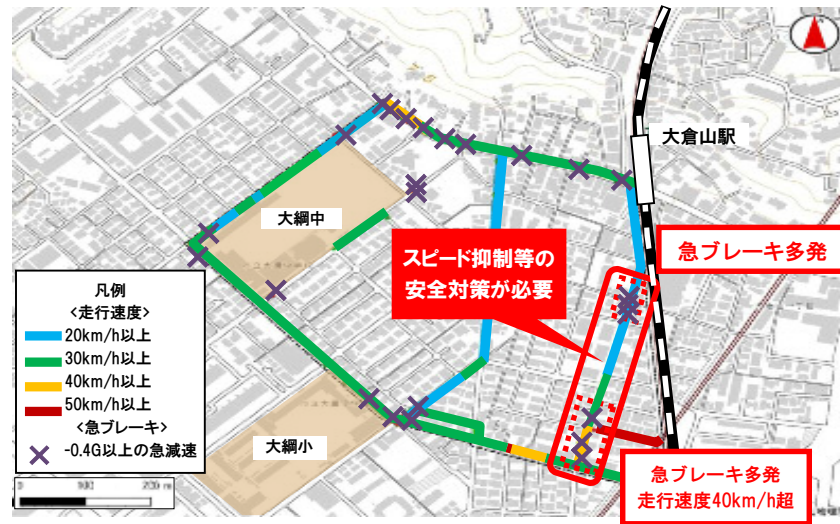
## 大倉山三丁目地区のビッグデータの分析結果

### ビッグデータとは？

ETC2.0には、速度や急加減速等の履歴を記録する機能があります。もちろんプライバシーが侵されることのないよう配慮されています。

集められたETC2.0搭載車両のデータを分析することにより、スピードが出ている区間や急ブレーキの多発箇所を特定することができ、事故が起きる前の対策実施に役立つことが期待されています。

東横線の西側にある南北方向の道路で、急ブレーキが多く発生している箇所や、40km/h以上の速度が出ている区間がありました(右図の赤枠で囲まれた道路)。



※0.4Gの急減速とは、ABS(アンチロック・ブレーキ・システム)が作動するブレーキ

## 検討会で出された主な意見

9月27日に開催した第2回の検討会では、大倉山三丁目地区における車両速度抑制対策を説明し、意見交換を行いました。また、合わせて、設置する予定のハンブを体験していただきました。主な意見は次のとおりです。

- ◆ ハンブはイメージよりも**段差が高くなかった**
- ◆ **自転車でも通りやすかった**
- ◆ **スピードを抑制させるには、1箇所よりも複数設置することが有効とわかった**
- ◆ **沿道への影響について検証を進めてほしい**
- ◆ **このような取り組みは良いことなので、ぜひ進めていただきたい**
- ◆ **このような取り組みによって、地域の人たちも安全に対する意識が高まると感じた**



大倉山三丁目地区の車のスピードを抑制するために、ハンブ(台形状の凹凸部)、狭さく(道路を狭くしたものを)試験的に設置します。

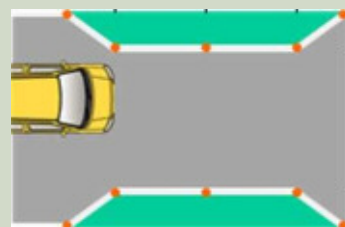
次回は、社会実験の効果を検証し、安全対策の検討結果についてお知らせします。

### 速度抑制策とは？

ハンブ(台形状の凹凸部)



狭さく(道路を狭くしたものを)



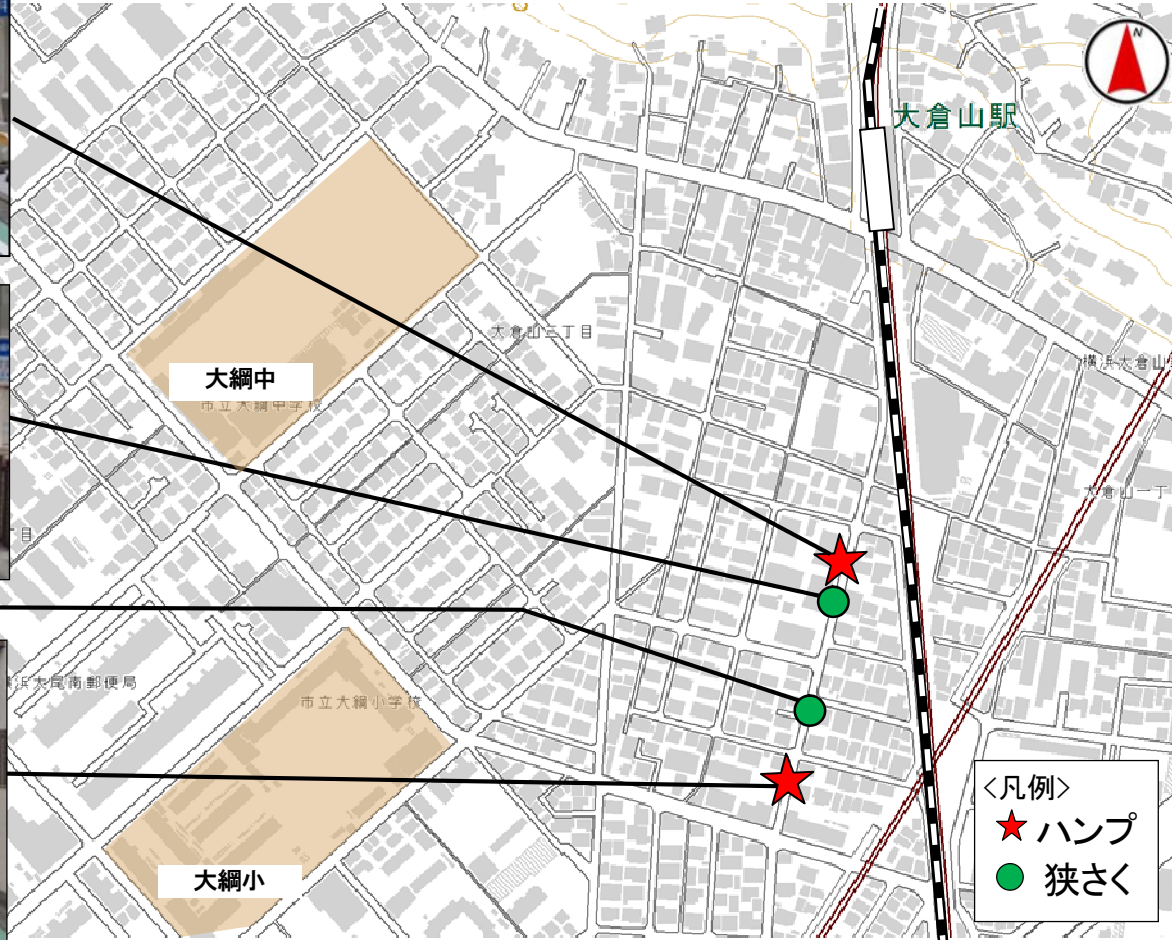
設置事例(横浜市泉区)



## 対策案(社会実験)について

ビッグデータの分析を踏まえ、スピードが高いところに対し、速度を低減させるために、沿道状況に配慮し、物理的な施設(ハンブ、狭さく)を試験的に設置する事にしました。

つきましては、10月からの約1ヶ月間、試行的に対策実施し、その効果を検証します。実験期間中にはビデオ撮影による交通状況調査、アンケート調査も行いますので、皆様のご協力をお願いいたします。



### 検討会のメンバー

- 〈メンバー〉  
 大倉山明和会長  
 太尾中町会長  
 大倉山エルム通り商店会長  
 大綱小学校PTA  
 港北区交通安全協会大倉山支部長  
 港北警察署  
 大綱小学校  
 港北土木事務所
- 〈オブザーバー〉  
 国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所  
 国土交通省国土技術政策総合研究所
- 〈事務局〉  
 横浜市道路局施設課